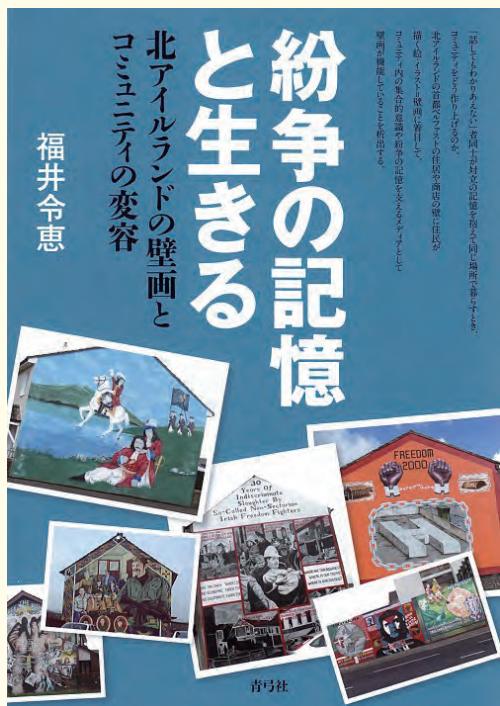




紛争の記憶と生きる： 北アイルランドの壁画とコミュニティの変容

研究代表者 福井令恵（学術研究・産学官連携本部 学術研究員）



青弓社より 2015 年発行
ISBN-10: 4787233874
ISBN-13: 978-4787233875

<http://www.seikyusha.co.jp/wp/books/isbn978-4-7872-3387-5>

■ 本の内容（要約）

北アイルランドでは、1969 年に大規模な衝突（北アイルランド紛争）が発生して以降、武力を用いた抗争が続きました。その後、多くの困難を乗り越えて 98 年のベルファスト合意で「和平」が成立しましたが、長年、国家観、政治的な志向、宗教観などが折り重なって住民同士が対立した事実は、住民の記憶に根深く残っています。

「話してもわかりあえない」人同士が同じ場所で暮らすとき、感情をどう調整し、コミュニティをどうやってつくりあげるのでしょうか。私は、それを知る手掛かりとして、壁画に注目して研究をしています。

ここでの壁画とは、住居や商店の壁に住民が描く絵のことです。北アイルランドの首都ベルファストに多数存在する壁画に着目して、ときに過激に、ときに真摯に、ときにユーモラスに表現している壁画の内容を、定点観測・参与観察・インタビューを交えて分析しています。

■本の特色

本書では、対立関係にあった二つの住民集団が抱える集合的意識や記憶が、壁画を介してどう表現されるのかを明らかにして、壁画がコミュニティの記憶とつながりを支えるメディアとして機能していることを析出しました。

【調査方法】

定点観測——ベルファスト市内を歩き、壁画の写真を撮り、その場所を地図上に記録。2003年、2004年、2006年、2007年、2009年、2013年、2014年、2015年と調査を実施し、データを比較（本書の議論は、その調査の中で2003年～2009年の調査を元にしています）。

雨の多い北アイルランドでは、壁画は急速に劣化し、メンテナンスをしない限り、短期間で消えていきます。壁画の存在を経年で観察し、どのような壁画が、維持され／消され／描き替えられていくのかをデータとして記録します。それによって、地域でどのような壁画が支持されているのか、その程度や変化について明らかにできます。

壁画の内容分析が主となる先行研究とは異なる私の研究の特徴は、壁画の生産・流通（伝播）・管理状況を経年で観察することで、そこにいる住民の集合意識と記憶の変化を探る点にあります。

【結果】

1. 紛争時代に被害の大きかった地域の多くが、和平合意後も経済的・社会的困難を抱え、そのような地域に、壁画が数多く存在していることを明らかにしました。壁画は紛争の深刻な影響を受けた住民のメディア（紛争の「当事者」の住民のメディア）であるといえます。
2. 両コミュニティとも、「歴史」や「文化」について描いた壁画が多いという特徴がみられました。しかし、歴史や文化といったジャンルの中でも、取り扱う題材は重複せず、それぞれ、異なる歴史的出来事や文化を、別々に表現しています。したがって、歴史や文化を扱う題材では、概して分断社会を反映したものになっているといえます。
3. 他方で、具体的な生活レベルでの地域の問題などについては、共通のテーマで描かれます。紛争下・紛争後に経験した両コミュニティの現在の社会的課題には、類似点があるためだと考えられます。
4. 紛争後、壁画に関して相反する政策——保存論（観光）と消去論（都市計画）——が政府・行政によって実施されました。そうした錯綜した政策のもとで、ローカル・コミュニティでは、外部の視線を意識し、セクタリアン（セクト主義的）と受け取られる可能性があると彼らが考える壁画については、描かれることが少なくなりました。同時に、より身近な地域（ローカリティ）を強調した壁画が、新たに多数描かれるようになりました。

■本研究助成による出版の波及効果

本書は、2015年6月18日付の日本経済新聞の文化欄で紹介されました。



「壁画 北アイルランドの鏡」

日本経済新聞朝刊

2015年6月18日

株式会社日本経済新聞社の許可を得て利用しています。
他のサイトやソフト等の電子媒体に転載を禁じます。



Living with Memories of Conflict: Murals in Northern Ireland and Transformation of Communities

Project Manager: Norie FUKUI
(Academic Research and Industrial Collaboration Management Office,
Post-doctoral Fellow)

In this book, I have clarified the process of formations of collective consciousness and memories of people in Northern Ireland post-conflict society, especially by focusing on visual images circulated in urban spaces (i.e. mural, community medium). Based on fieldwork for ten years, I have analyzed how the Catholic community and the Protestant community have expressed their emotions and memories. The purpose of my study is to explore how you can possibly overcome the difficulties that you face in society and tried to find a possible way.

I have shown although in divided society such as Northern Ireland, two histories are existed and remembered in each community, the creation of shared space between both communities can be seen.